

哲学A（こころと時間）

平井 靖史

期別：前期 単位数：2 開講年次 1

- - - 授業の到達目標等 - - -

- - - 授業計画 - - -

・哲学とはどのような営みであるかについて具体的な理解を得る。哲学のアプローチと、数学・物理学・心理学・生理学などの諸科学のそれとの違いを把握できるようになる。

・多様で錯綜した諸問題を概観し、様々な解法を批判的に検討することを通じて、時間と存在の関係について、主体的に考えることができるようになる。

- 1 イントロダクション
- 2 反復と永遠
- 3 哲学的探求と科学的探究
- 4 先と後
- 5 所有と存在
- 6 心・魂・精神
- 7 心身問題
- 8 同一性
- 9 時間と心身問題（1）
- 10 可能世界
- 11 時間と心身問題（2）
- 12 時間と心身問題（3）
- 13 時間と心身問題（4）
- 14 時間と心身問題（5）
- 15 まとめ

- - - 授業の概要 - - -

哲学的な思考方法を身につけるためには、さまざまな知識と適切な訓練が必要です。そのためには、ある程度方法論上の特徴を意識した上で、ともかく具体的な問題の考察にとりかかってみて、実践的に身につけていくのが一番の早道だと思います。

この授業では、時間や心身問題、自由や表現といった哲学的な問題を、19世紀末に出版されたベルクソンの第一主著『意識に直接与えられたものについての試論』をテキストとして、問題の概観、分析、解法の検討などを行います。たんにベルクソンの出した答えを知識として学ぶというのではなく、どのようにしてそこにたどり着いたかの思考のプロセスをたどってみるといふ哲学的思索の疑似体験を通じて、皆さん自身が思考の技能を身につけることが目指されています。

授業は講義形式で行われます。

- - - 事前・事後学習(予習・復習) - - -

事前予習としては、次回に講義で利用する範囲を読んでおくこと。他方で、慣れない哲学的な思索を身につけるためには、念入りな事後復習が必須です。必ず、授業後できるだけ早いうち（遅くとも翌日まで）に、ノートと記憶をたよりに授業での議論（導入 問題の立ち上げ 展開）を自分でリプレイ（追体験）してください。そうすることで、定着度がかかなり増すばかりでなく、自分で主体的に考える訓練になります。

- - - 成績評価基準および方法 - - -

期末の筆記テストによる。

時間の節約のため授業内で出席は取りませんが、試験問題は授業内で扱った議論からまんべんなく出題されるため、出席率の低さは成績に一定の仕方で反映されることになると思います。したがって、ぜひ出席してください。

期末テストは、授業で紹介した議論の理解度、知識の定着度、哲学的議論への習熟度を判定基準とする。

- - - テキスト - - -

ベルクソン、『意識に直接与えられたものについての詩論』（合田正人、平井靖史訳）、ちくま学芸文庫、2001年、ISBN4-4800-8705-2

- - - 参考書 - - -

ベルクソン、『哲学的直観ほか』（中公クラシックス） ISBN 978-4121600356

- - - 履修上の留意点 - - -

特になし。